



体験通し災害に備え

親子対象、防災イベント

胆 沢

社会福祉法人奥州いさわ会(藤田春芳理事長)の職員有志、地域公益事業プロジェクトによる防災イベント「防災を考えよう!」は、私たちが3・11を忘れない、つないでいく、私たちの3・11は、このほかに、胆沢の若柳地区センターで開かれた。参加した親子連れら約20人が各種体験を通して災害に対する備えや緊急時の行

動などを学んだ。同チームのしあわせ食堂班(菅原江里リーダー)とテウトドア班(高橋諒リーダー)が実施主体となり、東日本大震災の記憶を世代間でつないでいくこと、昨年初めて開催した。参加者は4班に分かれ、五つのチャレンジで防災士を目指す体験や防災食の調理などに挑戦。取り組みを知

た協和学院水沢第一高校クッキング部(又城育部長)の部員8人が協力し、災害時の炊き出しをイメージした豚汁も振る舞われた。チャレンジの内容は、身近なもので簡単に人運ぶ方法や段ボールベッド作り、災害時に運ぶ水の重さ体験など。初めて参加した市立胆沢第一小学校1年の海津巨君(7)は「毛

布を使って人を運ぶのは思ったより持ちやすかった。自分が運ばれた時はなかなかで良い乗り心地だった。火を起したり水をたくさん持ったりするのは大変だけれど、楽しく学べた」と話していた。菅原リーダー(5)は「体験で学んだことの

ほか、非常用の持ち物にせむし手ぬぐいを加えてほしい」と、参加者にチーム分けの目印として配布した手ぬぐいを紹介。止血や汗を拭うのに使うほか、タオルを挟んでヘルメット代わりにしたり、ロープとして役立つこともある、などを示した。ヨップは、16日午後2時から市文化会館(2ホール)で開かれる。入場無料だが事前申し込みが必要。小学生以上で定員30人。水沢吉小路在住のウクレレシンカ奏者

籍者ら32人が参加し、クラブの今後の繁栄と立ち上げた同クラブ。

当初は13人のチームだったが、大会に出場す